

自然教育園の陸棲ミミズ類

大 野 正 男*

Terrestrial Earthworms of National Park for Nature Study, Tokyo

Masao Ohno*

自然教育園の陸棲ミミズについては、1965年度の調査の際、種名未確定種3種を含む13種が筆者らによって報告された(安立・大野, 1966)。しかし、その後は園内のミミズを対象とした調査はほとんどなく、1972年10月、1976年7月に、それぞれ断片的な調査が筆者によって行なわれただけである。

今回の総合調査では、自由学園の藤田朋子氏により、ミズキ林を中心として土壌動物が精査され、久しぶりでミミズ類も調査の対象となった。確認されたミミズ類は、種名未確認種を含め9種であった。しかし、これらの中には、種名未確認種以外に、前回の筆者らの記録に追加される種は含まれていなかった。

1. 自然教育園のミミズ相概観

ツリミミズ科は種類数、個体数とも少ない。サクラミミズは倒木の樹皮下などで見られるが、園内では極く稀である。シマミミズは林内にはほとんど生息せず、事務所附近、正門附近など、人為の加わった地域で見られる程度である。

フトミミズ科は種名の判明した8種のほかに、なお種名未確定のものが4種ある。種名未確定のミミズのほとんどは新種とされるべきものであるが、このうちシログネミミズと仮称した種は、特に園内に多産し、今回の藤田氏らの調査でも、所産種中、最も個体数の多いものであった。自然教育園を代表するミミズと言ってよいであろう。

園内のフトミミズ類を、主として A_0 , A_1 に生息する表層性のものと、主として A_1 以下の地中に生息する深層性のものに分類すると次のようになる。

表層性ミミズ群：ハタケミミズ、ヒトツモンミミズ、フキソクミミズ、フトスジミミズ。

深層性ミミズ群：セグロミミズ、ヘンイセイミミズ、フタツボシミミズ、ヒナミミズ、シログネミミズ。

しかし、これらフトミミズ類の園内における分布状況をみると、かなり地域性があり、表層性のものでも、フトスジミミズの多い地域、ハタケミミズの多い地域、ヒトツモンミミズの多い地域など決して一様でない。ただ、今回の調査を含め、従来の調査地点が園内全域を対象としなかったため、こうした分布相を詳記することができない。したがって、ここでは、そうした分布傾向が認められるということだけを指摘し、

* 東洋大学自然科学研究室, Natural Science Laboratory, Toyo University

いずれ別の機会に、そうした目的の調査を実施したいと思う。

1972年の調査で筆者が分布を確認した東京都区内産のフトミミズは、種名の判明したものだけで16種ある。これらのうち、自然教育園から未知のものは、フツウミミズ、ヨコハラトガリミミズ、クソミミズ、ノラクラミミズ、モリスミミズ、イロジロミミズ、キクチミミズ、*Ph. marenzelleri* の8種である。フツウミミズが自然教育園に分布しないことは、ほぼ確実であるが、それ以外の種はキクチミミズ以外、深層性種が多いので、従来の調査で見落されている可能性もある。したがって、今後の調査でなお何種類かのミミズが、自然教育園のミミズとして追加されるかもしれない。

2. 表層性ミミズ3種のすみ分けの分布

表 1 表層性ミミズ3種の分布

調 査 地	v	h	c
明 治 神 宮	○	×	×
豪 徳 寺	○	×	×
馬 事 公 苑	○	×	×
井の頭公園	○	×	×
六 義 園	○	×	×
飛鳥山公園	○	×	×
高 円 寺	×	○	×
石神井公園	×	○	×
豊 島 園	×	○	×
東大植物園	×	×	○
後 楽 園	○	○	×
学習院大学	○	○	×
円 融 寺	○	○	×
自然教育園	○	○	×
上 野 公 園	○	○	○

(v : フトスジミミズ h : ヒトツモンミミズ c : フツウミミズ)

東京都区内の残存緑地のミミズを調査して興味深いのは、それぞれの緑地で、表層性ミミズのすみ分けの現象が認められる点である。すなわち、フトスジミミズの多いところではヒトツモンミミズ、フツウミミズの生息しないところが多く、また、ヒトツモンミミズの多い所にはフツウミミズの見られない場合が多い。

もちろん、一つの緑地内に、これら表層種の3種(上野公園)、あるいは2種(後楽園、学習院大、円融寺など)が共存するところもなくはないが、こうした緑地では、同一地点でこれらの混棲を見ることは少ない。たとえば、上野公園ではフトスジミミズは極めて稀にしか見られず、少なくともフツウミミズの生息地点ではこの種を見ることはない。

自然教育園ではフツウミミズが全く見られず、これら3種のうち、生息するのはヒトツモンミミズとフトスジミミズの2種だけである。しかし、ヒトツモンミミズも極めて稀でフトスジミミズだけが場所によってやや多いだけであ

る。上記のすみ分け的な傾向が、ここでも大体当てはまるように思われる。

3. 自然教育園産陸棲ミミズ目録

LUMBRICIDAE ツリミミズ科

Allolobophora japonica MICHAELSEN サクラミミズ

Eisenia foetida (SAVIGNY) シマミミズ

MEGASCOLECIDAE フトミミズ科

Pheretima agrestis (GOTO et HATAI) ハタケミミズ

P. divergens (MICHAELSEN) セグロミミズ

P. heteropoda (GOTO et HATAI) ヘンセイミミズ

P. hilgendorfi (MICHAELSEN) ヒトツモンミミズ

P. irregularis (GOTO et HATAI) フキシクミミズ

P. masatakae BEDDARD (?) フタツボシミミズ

P. micronaria (GOTO et HATAI) ヒナミミズ

P. vittata (GOTO et HATAI) フトスジミミズ

P. sp. No. 1 シロガネミミズ (仮称)

P. sp. No. 2

P. sp. No. 3

P. sp. No. 4